

本セッションは合同会社デロイト トーマツ 新木が担当させていただきます

弊社と本セッションのファシリテータのご紹介

About Us

合同会社デロイト トーマツは国際的なビジネスプロフェッショナルのネットワークである Deloitte（デロイト）のメンバーで、日本ではデロイト トーマツ グループに属しています。

合同会社デロイト トーマツはデロイトの一員として日本におけるコンサルティングサービスを担い、リスクアドバイザー、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザーの他、グループで有する監査・保証業務、税務・法務の総合力と国際力を活かし、企業や組織のあらゆる課題に対して戦略策定からテクノロジーを活用したオペレーションの実行、運用まで支援するファームです。

デロイトは、総人員約45万人超 を擁する世界最大級のプロフェッショナルファームのグローバルネットワークであり、デロイト トーマツ グループは1975年に加盟以来、50年 にわたり一体的な関係を築いています。合同会社デロイト トーマツを含むデロイト トーマツ グループのプロフェッショナルサービスの特徴である、複数専門分野の統合モデル（MDM）は、デロイトを象徴する取り組みでもあります。

Deloitte.



新木 一弘

サステナビリティユニット

バリューチェーンCN統括プロジェクトリーダー

日系製造業、外資系総合コンサルティング会社を経て、現職。
環境経営とCO2見える化を専門とし、民間企業向けの環境経営コンサルティング（シナリオ分析・ICP導入）、CO2見える化（Scope3/CFP）業務などを多数経験。

主要プロジェクト実績

■ CO2の見える化

- カーボンフットプリント算定・活用のアドバイザー（民間）
- フードサプライチェーンの見える化推進（農林水産省）
- バリューチェーン全体での脱炭素化支援事業（環境省）

■ 脱炭素経営（シナリオ分析・ICP等）

- シナリオ分析・財務インパクト定量化支援（民間：消費財）
- 脱炭素経営アドバイザー（民間：化学）
（インターナルカーボンプライシング制度設計 等）
- 脱炭素経営アドバイザー（民間：商社）
（市場調査、インターナルカーボンプライシング導入検討 等）

■ 適応ファイナンス・ビジネス

- 気候変動及び自然資本に係るリスク分析・評価ビジネス
の市場動向調査業務（NIES）
- 事業者による適応推進のための情報コンテンツ等調査業務（NIES）

■ 経営改革

- 消費財事業者向け海外市場戦略策定に関するアドバイザー（民間：消費財）

2050年CNの達成に向けて、企業は、個社の排出量（Scope1,2）のみならず、サプライチェーン上の間接排出量（Scope3）の削減に取り組むことが求められている

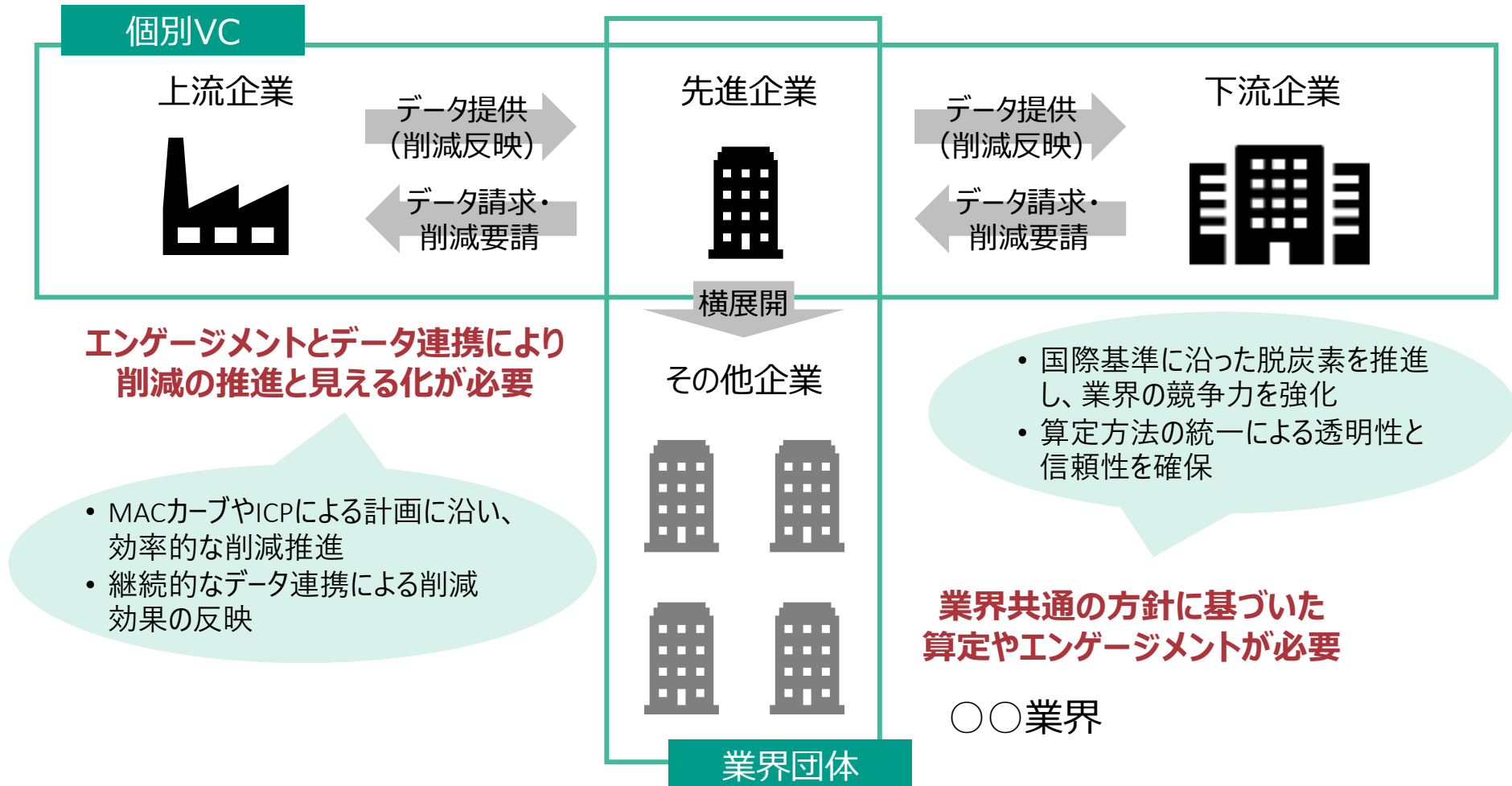
Scope3の削減に取り組む必要性

- 2050年のCNの達成のためには、個社の排出量（Scope1,2）に加え、サプライチェーン上の間接排出量（Scope3）を合わせたサプライチェーン排出量の削減が必須
- Scope3の開示・削減にむけては、国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）が開示を義務化し、SBTiやCDPなどのイニシアティブも取組状況の報告や、削減目標の設定を促している
- 投資家は投資先の選定にあたり企業にScope3を含めた開示・削減の取組を要請し、企業も取引先に対してScope3を含めた排出量の開示・削減を求めている



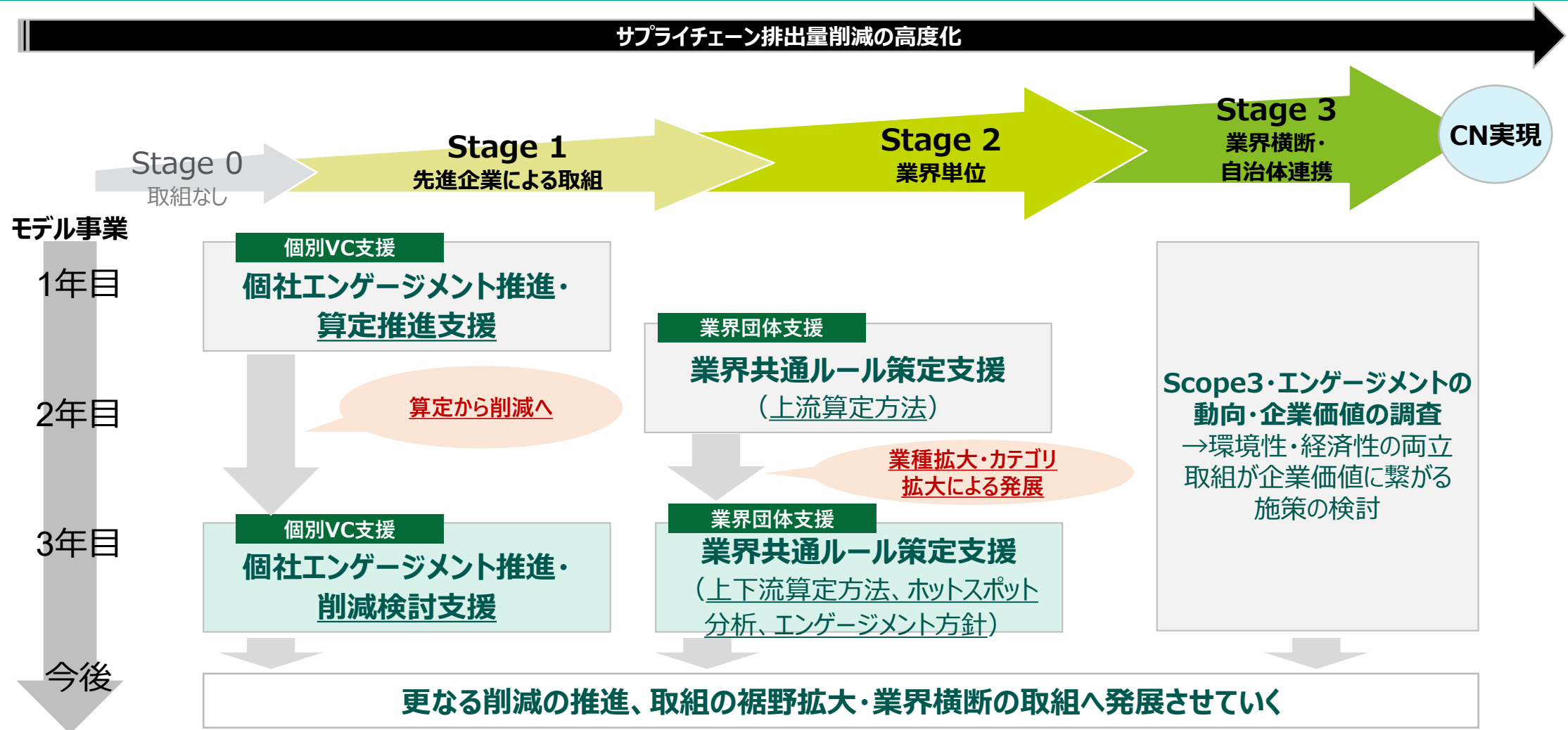
VC事業、事業背景

- サプライチェーン横断での脱炭素化に向けては、個社のエンゲージメントの推進を行いVC上の削減を進めていくと同時に、データ連携促進や後発企業支援のため、業界共通のScope3算定ルールやエンゲージメント方針のガイダンス等の整備を行っていくことが必要である



VC事業. 今年度の位置づけ

- 本モデル事業は令和5年度からの3年目の取組継続であり、以降、個社・業界に向けた取組の発展・対象業種の拡大を進めてきた。最終的には社会全体で環境価値が評価されるための大きなムーブメントを目指して発展していく

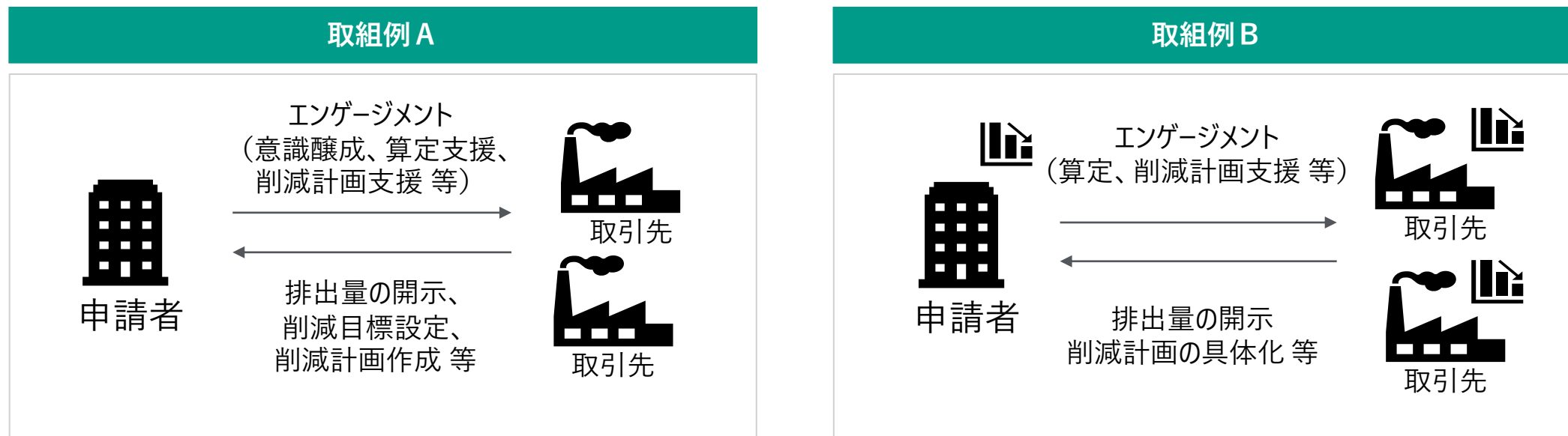


環境省では、企業のエンゲージメント支援及び業界共通の算定ルールやエンゲージメント方針の策定を進めるため、モデル事業を実施した

本モデル事業の概要

- モデル事業は、①個別VC支援、②業界団体支援の2つを実施した

①個別VC支援



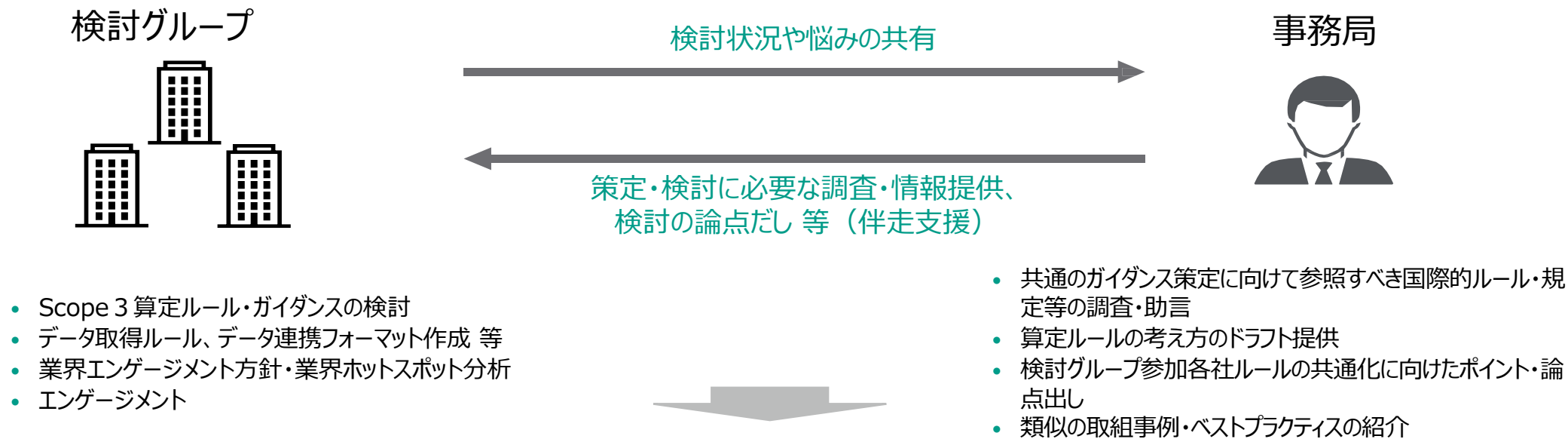
令和5年から3年間の集大成として企業が継続的エンゲージメントが可能な方法論を完成
算定から削減まで一貫した方法論を業種網羅的に確立

環境省では、企業のエンゲージメント支援及び業界共通の算定ルールやエンゲージメント方針の策定を進めるため、モデル事業を実施した

本モデル事業の概要

- モデル事業は、①個別VC支援、②業界団体支援の2つを実施した

②業界団体支援



令和6年からの2年目継続性を持って、
業界共通の取組の推進の方法論を達成

(補足) サプライチェーン排出量とは？

- 事業者自らの排出だけでなく、事業活動に関係するあらゆる排出を合計した排出量を指す。つまり、原材料調達・製造・物流・販売・廃棄など、一連の流れ全体から発生する温室効果ガス排出量のこと
- サプライチェーン排出量 = **Scope1排出量** + **Scope2排出量** + **Scope3排出量**
- GHGプロトコルのScope3基準では、Scope3を**15のカテゴリに分類**



○の数字はScope 3 のカテゴリ

- Scope1**：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)
- Scope2**：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
- Scope3**：Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

業界団体3団体には以下のテーマでディスカッション頂く

パネルディスカッション（業界団体）

【ディスカッションポイント】

- ① 業界として共通の算定方法、エンゲージメント方針を策定する意義について
- ② 業界としての取組だからこそ、実現できる事項、メリットについて